

伊丹市立荒牧中学校 第2学年

みんなが英雄

平成29年3月13日(月) 第39号



卒業式をおえて

先週の金曜日に卒業式が行われました。2年生全員で、いままでお世話になった先輩方に、オンリーワンの卒業式を贈るために、日々練習に励んできました。特に心を込めて練習したのが、「校歌」「大切なもの」「蛍の光」の3曲の合唱でした。先輩方への感謝の気持ちは、「歌」でしか伝えられない。感謝の気持ちを「歌」にのせて、毎日一生懸命に練習をしてきました。「大切なもの」は、指揮5組北浦果歩さん、伴奏6組上坂美乃莉さん、「蛍の光」は指揮7組小林もりくん、伴奏5組野津彩音さんが行いました。卒業式の練習では、先輩方に思いを届けるために、小林くんが2年生のみんなに熱く語る場面が印象的でした。卒業式では、みんなの思いを伝えられましたか？

また、「在校生のことば」では、3組赤松真之介さんと1組榮阪莉子さんが、毎日遅くまで練習を重ね、大舞台で在校生を代表して思いを伝えてくれました。ここで2人が語った「全文」を紹介します。



「在校生のことば」を語る2人

春の日差しがあたたかく降り注ぎ、生命の息吹が感じられる季節になりました。今日、この良き日に荒牧中学校を巣立っていかれる3年生のみなさん。ご卒業おめでとうございます。

3年前、この場所でスタートされた中学校生活。それぞれの思い出が胸の中を駆け巡っていらっしゃることでしょ。常に僕たち後輩の前を歩き、お手本となってくださった先輩方の背中が、僕たちに、かけがえのないものを残してくださいました。別れの時を迎え、先輩方との思い出が、僕たちの胸にもあふれてきます。

中学校生活への、不安と期待が入り混じった、入学式。緊張していた私たち。その時、耳に飛び込んできた荒牧中学校の校歌。4部合唱のきれいなハーモニーに惹きこまれ、その力強さにただただ圧倒されました。「立派な荒牧中学校生になりたい！」そう感じました。

部活動。ボールを懸命に追いかける先輩の横顔。笑いかけてくれた先輩のやさしい笑顔。前を走る先輩の背中。憧れの先輩に追いつこうと、必死に練習しました。ともに悔しがり、ともに笑いあい、同じ時間を共有した日々。先輩を見て、自分のダメなところがよくわかりました。時に厳しく、きちんと指導してくださいました。後輩ができ、先輩が引退された今。こ

れからは私たちがひっぱっていかなければならないのに、全然うまくいきません。先輩方の苦勞が身に染みてわかりました。引退されてからも、練習を見に来てくださったり、一緒に試合に出てくださったりしたときは、本当にうれしくて気分が高まり、勇気をもらえました。改めて先輩方にどれだけ頼っていたかが分かり、先輩の大きさがわかりました。

体育大会。華やかな女子のダンス。見ているこちらでも楽しくなりました。場の空気が変わりました。難しい動きなのに指の先までそろい、自分たちで考えたダンスとは思えない完成度。女子憧れの目標ができました。

一つ一つの動きが心を揺さぶり、鳥肌が立った男子の組体操。次々と完成しては消えていく様々な形。息の合った動き。最後に完成した高いピラミッド。鬼気迫る空気に圧倒されました。詰めていた息を吐き出したとき、「3年生はすごい。」と感動で体が震えました。

荒中ソーラン。1年生の時に見て、このかっこいい荒中ソーランを今年踊ることができるのだとワクワクしました。この伝統を受け継ぎ、かけがえのない「荒中ソーラン」にしたくて、私はソーランリーダーになりました。

夏休み。僕たちのために時間を割き先輩方が踊りを教えてくださいました。洗練された動きに「これが荒中ソーランだ」と、先輩方が途切れさせることなく受け継いできた伝統を強く感じました。本番、後ろからの掛け声に後押しされて、力が指先までみなぎるのがわかりました。先輩方が安心して「あとの荒中を任せられる」と思ってもらえるように精一杯表現しました。拍手をいただいたとき、伝統を受け継ぐことができた達成感と喜びが全身を満たしました。

学習発表会。声量、ハーモニー、気迫、どれをとっても自分たちとはレベルが違いました。真剣なまなざし、一人一人の体全体から音が響きあい、合唱にかける強い思いを感じました。僕たちも一生懸命練習しましたが、3年生の歌声を聴き、まだまだ目指すべき上があるのだと教えていただきました。

季節は巡り、今。荒牧中学校で過ごした日々の中で僕たちはたくさん助けられてきました。委員会の話し合いの時、「こうしたらもっとうまくいくと思うよ」とのアドバイス。分からないことがあったり、困っていたりすると優しく声をかけてくださいました。相談するとすぐに解決策を教えてくださいました。「この背中に追いつきたい。」「頼れる先輩になりたい。」

いつでも先輩の存在はとても大きいものでした。その目標が明日からはありません。自分たちがこれからの荒牧中学校を引っ張っていかなければいけません。不安でいっぱいになるときは先輩方の姿を思い出し、追いつけるように努力していきます。卒業してもずっと僕たちの先輩であることには変わりありません。どうかやさしく見守ってください。

これから、それぞれの道を切り拓いていかれる先輩方。つらいとき、苦しいときには、この荒牧中学校での日々を思い出し、明日への一歩を力強く踏み出してください。

先輩方がたどり着いた中学校生活の集大成である今日。私たちは、この「オンリーワンの卒業式」を、先輩方の背中を、今、しっかりと心に焼き付けます。先輩方、いままで本当に、ありがとうございました！

平成29年 3月10日 在校生代表 赤松 信之介
榮阪 莉子